

# 学校評価(後期)

- 1 自己評価結果（前期と後期の比較）
- 2 児童アンケート結果  
（前期と後期の比較）
  - ・ 甲斐市小学校結果
  - ・ 本校全児童結果
  - ・ 各学年児童結果
- 3 保護者アンケート結果（前年度との比較）
  - ・ 甲斐市小学校結果
  - ・ 本校全児童結果
  - ・ 各学年児童結果
- 4 職員、児童、保護者の関連図

# 甲斐市立竜王南小学校 自己評価(後期)

平成27年1月30日(金)作成

学校長 堀内 訓 | 記者者 職名: 主幹教諭 氏名: 進藤雅一

## ◇ 本年度の学校教育目標

### 「楽しい学校(楽校)の創造」 -やる気 こん気 げん気-

#### ○ 具体目標(めざす子ども像)

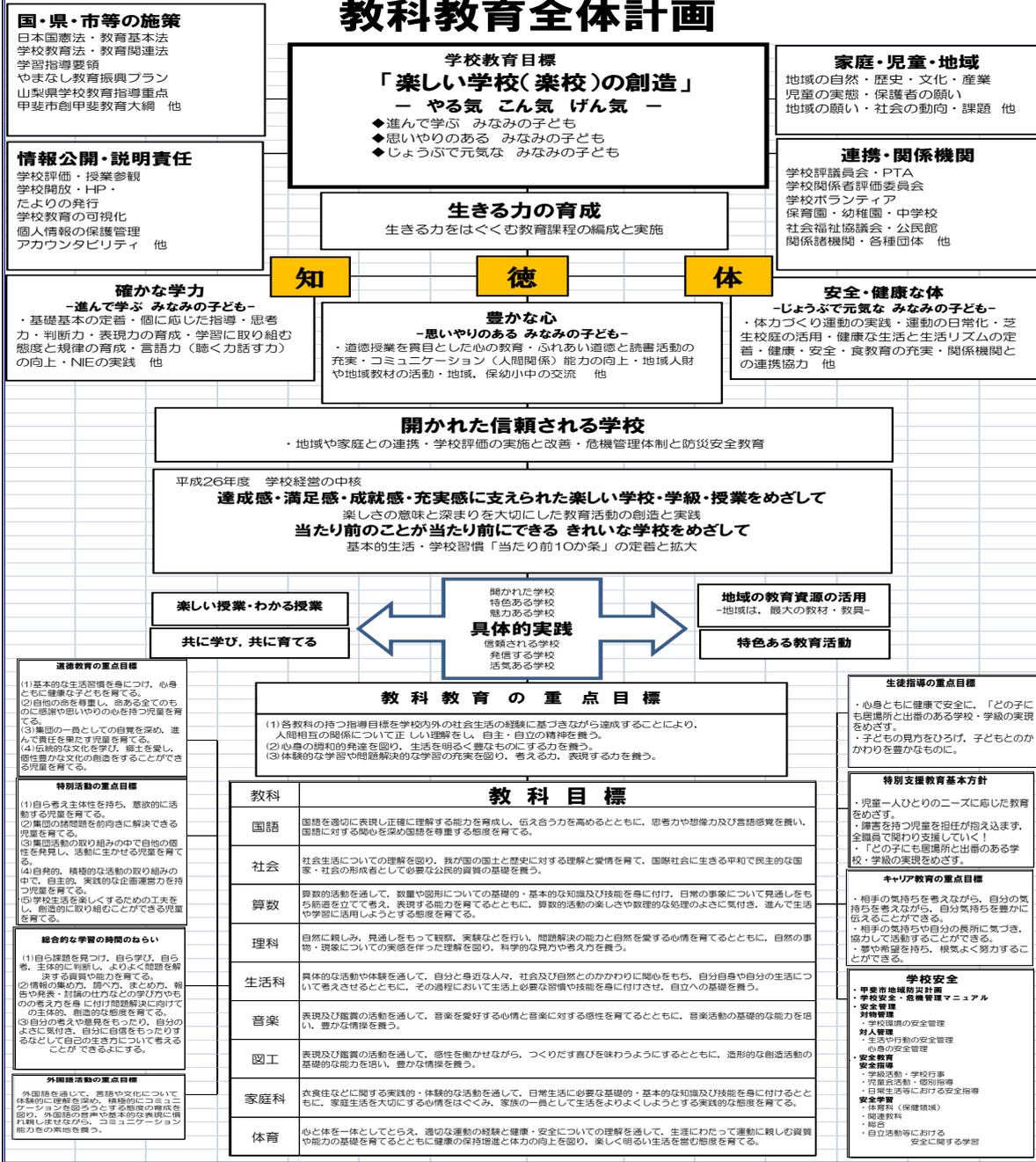
- ・ 進んで学ぶ みなみの子ども (知育・確かな学力)
- ・ 思いやりのある みなみの子ども (徳育・豊かな心)
- ・ じょうぶでげん気な みなみの子ども (体育・健康な体)

#### ◎ 児童の行動目標

- ①「授業に集中」しよう。
- ②「あいさつ」をしよう。
- ③「命を大事に」しよう。

平成26年度 甲斐市立竜王南小学校

## 教科教育全体計画



# I 平成26年度 甲斐市立竜王南小学校「学校評価」の経過

日時	実施内容	備考	日時	実施内容	備考
5月28日 (水)	各クラスへ自己評価及び児童用アンケート配布	朝礼にて提案 自己評価及び児童用アンケート配布	11月17日 (月)	各クラスへ自己評価・保護者アンケート・児童用アンケート配布	11月職員会議にて提案 自己評価及び保護者アンケート、児童用アンケート配布
5月29日 (木)	前期自己評価実施開始 児童用アンケート実施開始(6年)		11月17日 (月)	保護者アンケートを全児童数配布	保護者には、お知らせとセットで配布
5月30日 (金)	前期自己評価実施	自己評価→終礼時に一斉に実施 児童アンケート→主幹の机に提出 *シートの回答者欄は必ず確認	11月18日 (火)	自己評価実施 児童用アンケート回収	自己評価→終礼時に一斉に実施 児童アンケート→主幹の机に提出 *シートの回答者欄は必ず確認
6月2日 (月)	児童用アンケート実施開始(1~5年)	終了次第、主幹へ各クラスごとの袋に入れて提出。	11月21日 (金)	保護者アンケート回収	担任へ提出(懇談の際に提出でも可) *シートの回答者欄は必ず確認
6月6日 (金)	児童用アンケート回収完了		12月5日 (金)	自己評価送付 児童アンケート送付	教育総務課集配→委託業者
6月9日 (月)	前期自己評価送付 児童アンケート送付	教育総務課集配→委託業者	1月20日 (火)	学校関係者評価委員会開催の通知 配布	
6月27日 (金)	自己評価書作成完了(主幹)	完成した評価を校長・教頭へ提出 (監査を受ける)	1月下旬 ( )	自己評価書作成完了(主幹)	完成した評価を校長・教頭へ提出 (監査を受ける)
7月18日 (金)	自己評価書校内報告 学校関係者評価委員会開催 PM7:30- 会議室	終礼にて報告 出席者:学校関係者評価員・校長・教頭・主幹・生徒指導主任	2月6日 (金)	学校関係者評価委員会開催 PM7:30- 会議室	出席者:学校関係者評価員・校長・教頭・主幹・生徒指導主任
7月22日 (火)	学校関係者評価書作成完了(主幹)	完成した評価を校長・教頭へ提出 (監査を受ける)	2月20日 (金)	学校関係者評価書作成完了(主幹) グラントデザイン作成完了(主幹)	完成した評価を校長・教頭へ提出 (監査を受ける)
7月24日 (木)	学校関係者評価書校内報告	校内研の中で報告	2月20日 (金)	学校関係者評価書校内報告 グラントデザイン校内報告	終礼にて報告
7月31日 (木)	自己評価書+学校関係者評価書提出	市教委提出	2月25日 (水)	自己評価書 学校関係者評価書	教育総務課提出(主幹)
9月上旬 ( )	自己評価書+学校関係者評価書HP公表(市教委確認後)	情報担当(西川)HPアップ	3月上旬 ( )	自己評価、学校関係者評価、 グラントデザインHP公表 結果の公表(保護者地域)	情報担当(西川)→HPアップ 家庭数配布 地域関係者へ郵送
8月28日 (木)	定例教育委員会報告		3月26日 (木)	定例教育委員会へ集計結果、自己評価書、学校関係者評価書の報告	定例教育委員会

## II 全体評価

今年度は、昨年度から継続して掲げている学校教育目標「楽しい学校(楽校)の創造」の達成に向けて教育活動を邁進してきた。そして地域との連携と図っていく取り組みをより充実するために、「開かれた学校」を意識してきた。学校開放日や授業参観、親子活動はもとより、HPや学校だよりを通して多くの目で児童達を見守る取り組みをしてきた。そして、児童達にとって学校が何より楽しい場所である、一人ずつの居場所があるとことが、楽しい学校では欠かせない内容として取り組んできた。

前期の評価においては、この学校教育目標が2年目で職員や児童に浸透し、多くの学校行事や授業で主体的に活動し楽しく学習が深められてきた傾向が挙げられた。また、今年度よりスタートした児童の行動目標である「授業に集中しよう」「あいさつをしよう」「命を大事にしよう」の日々の取り組みにより、一年間通して高い水準を維持してきた。特に、今年度は11月に甲斐市教育委員会指定「習得・活用・探求する児童の育成事業」として公開研究会を行い、校内研究テーマ「いきいき学び合い楽しくわかる授業」を掲げ成果を上げることができた。また、Q-U分析を生かし、多くの職員で児童の良さを認め支え合いながら、コミュニケーションをより深めていくことにもつながった。アンケートによる数値にはまだまだ伸びしろがあるものの、甲斐市全体の結果と比較しても「児童間の関わり合い」「先生との関わり」「授業での発言」などで良い結果が得られた。これは、全職員が目標に向かい共通理解をした上で、児童と真摯に向き合い学校生活を送ったことによるものと言える。今年度の取り組みをきっかけとして、竜王南小学校のが児童にとって楽しく学べる場所であり続けるよう努力を重ねていきたい。

### III 各項目ごとの評価

#### 1 学校教育目標・学校経営について

番号	I 学校教育目標・学校経営について	前期評価					後期評価				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
		そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1	あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている。	89	11	0	0	0	92	8	0	0	0
2	あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	75	25	0	0	0	86	14	0	0	0
3	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	89	11	0	0	0	92	8	0	0	0
4	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	75	25	0	0	0	78	22	0	0	0
5	あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。	69	31	0	0	0	81	19	0	0	0
6	あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。	58	42	0	0	0	67	33	0	0	0
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。	69	31	0	0	0	74	26	0	0	0

学校教育目標・学校経営については、全ての項目でA（そう思う）+B（ややそう思う）が100%の回答があったと同時に、前期評価よりも向上した。全体評価にもあるように、学校教育目標が理解され、深く浸透してきた成果と言える。また、それぞれの児童にあった学習方法や指導方法をそれぞれの職員が考え実行してきたこととも言える。

特にPDCAサイクルによる教育活動は、クラスの実態を踏まえた指導がなされていたため、後期評価のA（そう思う）が80%以上の値を示した。より良い活動へ結びつけるために、職員間での話し合いや反省が計画に生かされたことを示している。また、職場の福利厚生及び健康管理についても、管理職や養護教諭の積極的かつ迅速な対応が行われていたため数値が向上し、安心安全な職場体制につながった。

#### 2 学校運営について

番号	II 学校運営について	前期評価					後期評価				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
		そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1	あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備・保全)している。	74	26	0	0	0	71	29	0	0	0
2	あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。	44	56	0	0	0	44	53	3	0	0
3	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	83	17	0	0	0	72	28	0	0	0
4	あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。	74	26	0	0	0	63	37	0	0	0
5	あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。	56	41	0	0	0	47	47	6	0	0
6	あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。	78	22	0	0	0	86	14	0	0	0
7	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	89	11	0	0	0	86	14	0	0	0
8	あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている。	65	35	0	0	0	52	48	0	0	0
9	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	91	9	0	0	0	89	11	0	0	0

学校運営の自己評価の後期においては、2と5の項目でC評価が見られた。2の危機管理マニュアルの理解については、今年度後半の様々な事案に対する対応が不十分だったと思われる。児童の安全安心の最優先であり、児童の行動目標の「命を大事にしよう」を達成すべく、早急に見直し職員間の共通理解を図る必要がある。また、これから「予告なし防災訓練」も我が校で初めて予定されているため、PDCAサイクルを生かし今後の対応につなげていきたい。職員会議や校内研への関わり方は、担当の分散化や積極的な会議になる運営方法を図る必要があると感じている。職員へもう一度問いかけた上で、会議の活性化を図りたい。そして3項目の情報管理・活用は、C項目はなかったものの、割合がA項目からB項目へ移ってきている。新しくできた写真の管理、グループウェアの活用などと併せて、PCの活用を確認していくことが望まれる。

前期では体制づくりがしっかりできていた特別支援学級が良い点として挙げられたが、後期についても同様な結果だった。職員の代替措置があったにもかかわらず高い数値を示したのは、特別支援学級担任同士の連携と親学級の担任などとの連携が図られた証である。それが6の項目の職員間の相互理解と信頼関係の数値の上昇にも表れている。お互いが支え合う教師集団であることが、竜王南小学校の良い特徴の1つであると言えるだろう。

### 3 学習指導について

番号	Ⅲ 学習指導について	前期評価					後期評価				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
		そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	77	23	0	0	0	60	40	0	0	0
2	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	64	36	0	0	0	53	43	3	0	0
3	あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	82	18	0	0	0	70	30	0	0	0
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。	76	24	0	0	0	80	20	0	0	0
5	あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。	52	48	0	0	0	47	53	0	0	0
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。	70	30	0	0	0	70	30	0	0	0
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。	58	42	0	0	0	48	52	0	0	0
8	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	79	21	0	0	0	76	24	0	0	0
9	あなたは、教科に必要な指導時間の確保に努めている。	84	16	0	0	0	95	5	0	0	0

学習指導に関わっては、全体的にA項目の評価率が、前期よりも低下していることが挙げられるが、A（そう思う）+B（ややそう思う）は100%に近い状態を維持している現状である。今年度は公開研究会を実施し、児童の学び合いを中心に研究を深めてきた。職員全員がよりレベルの高い学び合いを行うための指導を、試行錯誤しながら学習して取り組んできたことを表しているように感じる。2項目の学びの意欲を喚起する授業ではC項目が出た。また、1項目の民主的で規律のある学級づくりと言う点ではA評価が低下した。これらは児童の個人差が大変大きい現状を表し、個の対応をどれだけ柔軟に取り組んでいけるかと言う課題を示していると思われる。教務担当や支援員など職員を今まで以上に有効活用しながら、学習効果をあげていくことが、これから大事になってくることだろう。

それぞれの職員はできる限り時間を有効に使い児童の指導にあたっていることは、9項目のA評価が伸びていることから分かる。学年で連携し、授業時数や教育課程の確認を行いながらの丁寧な指導は、児童の学力向上のためにも続けていきたい点である。

### 4 生徒指導について

番号	Ⅳ 生徒指導について	前期評価					後期評価				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
		そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対:児童生徒)	74	26	0	0	0	80	20	0	0	0
2	あなたは、児童生徒の規範意識をなくむ指導に取り組んでいる。	77	23	0	0	0	73	27	0	0	0
3	あなたは、生き方教育(キャリア教育・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	33	67	0	0	0	48	48	4	0	0
4	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。	59	41	0	0	0	53	47	0	0	0
5	あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。	80	20	0	0	0	77	20	3	0	0
6	あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている。	74	26	0	0	0	80	20	0	0	0
7	あなたは、「わたしたちの道徳」などを活用し、豊かな心を育む指導に取り組んでいる。	44	56	0	0	0	36	60	0	1	0

全体評価でも上がったように、職員と児童のコミュニケーションがより図られ、それぞれの児童にどう対応していくと良い指導につながるか考えてきた結果だろう。規範意識やいじめに対する取り組みも迅速かつ早急に対応してきたと言える。学校組織としての力をより高めるためにも、職員間での共通理解をより図り対応を進めていくことが望まれる。

キャリア教育の3項目ではC評価があった。前述にあるような様々な児童がいる中で、その児童にあった対応をしていく柔軟性が求められているように感じる。これは5項目の課題の共有化という点でも同じことが言える。多忙な毎日の中で、どのようにケース会議や打合せなどを設けて対応していくかは、それぞれの児童にあったキャリア教育をどう推進していくか、これからの大きな課題と言える。

また、「わたしたちの道徳」の活用の評価は、「心のノート」からの変更があった点が大きな要因と思われる。早急に対処していくよう、職員での連絡を周知徹底し、道徳の授業での活用をしていきたい。

## 5 地域との連携について

番号	V 地域との連携について	前期評価					後期評価				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
		そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	50	50	0	0	0	53	44	3	0	0
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	47	53	0	0	0	55	46	0	0	0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	75	25	0	0	0	97	3	0	0	0
4	あなたは、PTA活動に主体的に参加している。	59	41	0	0	0	55	46	0	0	0
5	保護者は、PTA活動に協力的である。	47	53	0	0	0	46	51	3	0	0
6	地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている。	81	19	0	0	0	78	22	0	0	0
7	保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。	36	64	0	0	0	42	58	0	0	0
8	あなたの学校では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。	72	28	0	0	0	74	26	0	0	0
9	あなたの学校は、開放日などを通じて地域に開かれた学校づくりに努めている。	97	3	0	0	0	91	9	0	0	0

1項目の地域人材の活用にC評価が見られた。ただし、学校全体で見ると今年度は6年生が福祉施設の訪問を複数回行ったことをはじめとし、親子活動を取り入れてきた。また毎年力を入れてる稲作や餅つき・地域見学など、着実に学習活動は広まってきているように感じる。今回の数値は、より専門的な人材の確保が望ましいという点での課題と思われるので、人材発掘をこれからも継続していきたい。またPTA活動への協力的という点でもC評価が挙げられたが、昨年度のA評価が30%台を推移していたことを考えると、改善は見られてきていると思われる。学校開放日や授業参観を利用して親子での活動を今年度から取り入れてきたこと、運動会などで保護者に協力を仰いだことなど、保護者を学校の活動に巻き込みながら今後とも継続して行くことが大切であると感じている。

資料の最後にある教職員と保護者のアンケートの比較（相関図）では、まだまだ学校の教育活動について、職員と保護者の考えに差があることも分かった。より地域に信頼され「開かれた学校」を目指すためにも、HPや学校たより、多くの活動への参加などさらなる充実を図っていきたい。

## 6 学校の特色に関して

番号	VI 学校の特色に関して	前期評価					後期評価				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
		そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	わからない
1	児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。	97	3	0	0	0	89	11	0	0	0
2	授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的の実施している。	100	0	0	0	0	97	3	0	0	0
3	あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう指導に努めている。	75	25	0	0	0	79	21	0	0	0
4	あなたは、児童が児童会行事に進んで取り組むよう指導に努めている。	64	36	0	0	0	68	32	0	0	0
5	あなたは、児童に校内の掲示物を進んで読ませよう指導に努めている。	75	25	0	0	0	71	29	0	0	0
6	あなたは、児童が自分の考えを発表できるよう指導に努めている。	71	29	0	0	0	74	27	0	0	0
7	あなたは、朝学習・朝読書の充実にも努めている。	83	17	0	0	0	77	19	0	3	0
8	あなたは、校内研究会のテーマを生かした、教育活動に努めている。	69	31	0	0	0	61	39	0	0	0

学校の特色に関しては、全体的に前期評価と同様にA（そう思う）+B（ややそう思う）の割合が高い結果となった。そんな中で児童会活動は運動会や集会活動などをはじめ、より具体的な取り組みを後期に実施したことでA評価の数値も伸びてきたように思われる。読書活動や授業中の考えを発表する項目でも同様の結果となった。

7項目の朝学習・朝読書の充実についてはD評価が出た。校内研の話し合いでもいろいろなアイデアが出され、児童の学習の習得に活用できるよう行ってきたが、朝の限られた時間であることや学習の準備にかかる時間の確保に課題があるように感じる。継続して取り組める内容と行事に関わった取り組み、教科の学習の補助としての取り組みなど、内容を精査していきながら次年度も活用できる体制が望まれる。また、一週間など少し長いスパンで準備していくことが望まれ、学習計画などを早めに進めていくことも挙げられる。

## V 児童アンケートから

学校目標である「楽しい学校（楽校）の創造」を目指し一年間活動したことで、1項目「学校の楽しさ」がA評価（そう思う）＋B評価（ややそう思う）で数値の向上が見られた。B評価（ややそう思う）がかなり伸びた点を考えると、クラスや学校での児童の充実度が増したことが挙げられ、児童にとって学校が居心地のいい場所であることを示している。Q-U分析による学級経営や多くの職員で児童達を多方面から支えていくことができた成果と思われる。「分からないことを先生に聞く」「困った時に相談する先生がいる」の2項目が高い数値を示していることから、児童と職員の関わりが綿密であることがうかがえる。お互いを支えていける信頼関係を、今後とも大切にしていき、教育活動の効果をこれからも高めていきたい。

他の項目ではA評価（そう思う）が前期より後期の値が低下していることが分かる。しかしながら、B評価（ややそう思う）の値は向上していることで、A評価（そう思う）＋B評価（ややそう思う）の満足している児童の割合は伸びを示していることが多かった。これは、C評価（やや思わない）やD評価（思わない）の児童にとって、学校が満足する場所になりつつあることが評価の移行に表われている。一年間の活動を通して、多くの仲間や職員とふれあい、自分で主体的に取り組むことが具体化し見えてきたこと、学校での自分の居場所が見つかったこと、などと推測される。今後とも全児童が満足できる「楽しい学校」を創造すべく、なお一層の取り組みが求められている。

## IV 保護者アンケートから

昨年度と後期アンケートとの比較をしてみると、児童の結果同様にA評価（そう思う）＋B評価（ややそう思う）が伸びてきている項目が多くなった。今年一年間の学校での取り組みや児童の変容が、保護者にも理解が得られたことを示すものと感じられる。学校開放日、授業参観、HPや学校たより、今年度校内研究で取り組んだ「家庭学習の手引き」等を通して、より学校や児童の学習のことを理解して頂いたことは嬉しく感じる。ただし、地域や保護者からの「要望」「連携」という面ではまだまだ数値が伸びていないこともあるので、親子活動のように保護者と一緒に学校で活動していく取り組みがさらに求められていくものと感じている。運動会での成果をアンケートしたように、多くの保護者や地域の方々に意見を頂き、学校の教育活動へフィードバックしていくことも大切であると思われる。

また、保護者のアンケートからは多くの課題も見えてきた。「児童の間違ったことに対する指導」の項目では昨年度より数値が低下した結果となった。保護者などに対してより具体的な説明が求められていると同時に、職員間での共通理解を図り指導に一貫性を持つことの必要性があると思われる。また、仲の良い友達を知っているものの、困った時に相談できる友達がわからない保護者が16%ほどいたことも課題の1つだ。学校行事へ関わりを多く持つことでクラスや学校、他の児童、そしてその保護者、これをより多く知ってもらうことが、今後より必要になってくると感じた。その他にも、家庭での学習が伸びてきた反面、授業の理解度が低下していることは、児童の個人差が大きくなっていることが要因と思われる。基礎・基本の定着と丁寧な学習を根気強く続けていくことが求められている。

保護者のアンケートからは、児童アンケートよりりもA評価（そう思う）よりもB評価（ややそう思う）の数値が高いものが多い。これは概ね満足しているが、今後より充実した学校での活動が期待されているという証でもある。一人ずつの児童を良く見つめ、地域に耳を傾け、共に児童を支えていく視点で活動していく重要性をあらためて感じる結果となった。